

# 栃木の子どもの学力向上を図る授業改善プラン

- 平成16年度教育課程実施状況調査の結果を踏まえて -

## 【小学校・社会科】

平成17年5月

栃木県総合教育センター

本センターでは、平成16年7月、県内の公立小・中学校（小144校、中114校）を対象として、教育課程実施状況調査を実施しました。調査にあたっては、国が平成15年度に実施した同調査の調査票（ペーパーテスト及び質問紙）を複製使用し、小学校では第6学年を対象に第5学年段階の内容の調査を、中学校では第3学年を対象に第2学年段階の内容の調査を行いました。

今年度、調査結果及び調査結果を踏まえた学習指導の充実・改善を図るためのポイントを教科ごとにまとめ、「栃木の子どもたちの学力向上を図る授業改善プラン」シリーズとして、3回に分けて発行する予定です。各学校でご活用いただき、「確かな学力」を育むための学習指導の充実・改善にお役立てください。

# 1 社会科の調査結果

## 調査結果の特色

### < ペーパーテスト調査 >

第5学年における社会科の学習について、本県の児童の学習状況は、全国と比較しておおむね良好といえる。ただし、「我が国の国土の様子」に関する問題の通過率の平均が低いことや、地図や地図帳の活用が十分ではないという状況もみられる。

本県の通過率の平均は、全国の通過率の平均とほぼ同程度であり、評価の観点別、内容別の平均でも、ほとんど差はみられない。

設定通過率と本県の通過率の平均を比較すると、評価の観点別では、「社会的事象についての知識・理解」については全国と同程度、他の3観点については全国をいずれも上回っている。内容別では、全国をすべて上回っている。

### < 質問紙調査 >

「社会科の勉強が好きだ」について、「そう思う」あるいは「どちらかといえばそう思う」と回答した児童は、本県では67.5%で、全国より12.8%高くなっている。

「社会科の授業がどの程度分かりますか」について、「よく分かる」あるいは「だいたい分かる」と回答した児童は、本県は68.9%で、全国より3.7%高くなっている。

## ペーパーテスト調査の結果から

### 1 通過率の平均の比較

#### (1) 全問題の通過率の平均

本県の通過率	全国の通過率	本県と全国との差	設定通過率	本県と設定通過率との差
75.6%	75.5%	0.1%	72.4%	3.2%

\* 通過率は、問題ごとの正答、準正答の合計を解答者数の合計で割った数値。

\* 通過率の平均は、3種類の問題冊子の各問いの通過率の合計を、総問題数(84)で割った数値。

\* 設定通過率は、学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけ、学習指導要領作成時に想定された学習活動が行われた場合、個々の問題ごとに正答、準正答の割合の合計である通過率がどの程度になるかを示した数値。

#### (2) 評価の観点ごとの通過率

評価の観点	通過率	本県の通過率	全国の通過率	本県と全国との差	設定通過率	本県と設定通過率との差
社会的事象への関心・意欲・態度		81.3%	82.0%	-0.7%	70.7%	10.6%
社会的な思考・判断		76.5%	75.8%	0.7%	70.3%	6.2%
資料活用の技能・表現		78.0%	77.5%	0.5%	72.8%	5.2%
社会的事象についての知識・理解		73.1%	73.9%	-0.8%	73.1%	0.0%

(3) 内容ごとの通過率の平均

内容	通過率	本県の通過率	全国の通過率	本県と全国との差	設定通過率	本県と設定通過率との差
(1) わが国の食糧生産の特色と国民生活との関連		75.4%	75.1%	0.3%	73.1%	2.3%
(2) わが国の工業生産の特色と国民生活との関連		76.7%	76.9%	-0.2%	73.3%	3.4%
(3) わが国の運輸、通信などの産業の様子と国民生活との関連		82.1%	82.4%	-0.3%	72.1%	10.0%
(4) わが国の国土の様子		71.3%	71.2%	0.1%	71.0%	0.3%

(4) 本県の通過率が全国の通過率を5%以上、上回っている、あるいは、下回っている、内容ごとの問題数

内容	問題数	問題数	上回っている問題数	下回っている問題数
(1) わが国の食糧生産の特色と国民生活との関連		24	1	1
(2) わが国の工業生産の特色と国民生活との関連		24	2	2
(3) わが国の運輸、通信などの産業の様子と国民生活との関連		12	0	1
(4) わが国の国土の様子		24	3	3

本県の通過率が90%以上だった問題

出題のねらい	通過率	本県の通過率	全国の通過率	本県と全国との差
放送、新聞、電話の特色を理解している		94.2%	92.1%	2.1%
気候に適応した沖縄県の人々の暮らしの工夫について理解している		92.8%	92.6%	0.2%
資料から、国土全体に占める森林の面積の割合を読み取ることができる		90.5%	89.1%	1.4%
畜産物の生産と自然環境との関係を理解している		90.1%	88.4%	1.7%

本県の通過率が50%以下だった問題

出題のねらい	通過率	本県	全国	本県と全国との差
都道府県の構成を理解している		38.4%	43.7%	-5.3%
国土を構成している島の名前を理解している		45.2%	48.4%	-3.2%
米の品種改良について理解している		45.5%	43.9%	1.6%
石油の輸送経路を理解している		47.0%	44.2%	2.8%
自動車を組み立てられる順序を理解している		48.9%	62.8%	-13.9%
小麦の輸入先であるオーストラリアの名称と位置を理解している		49.3%	53.1%	-3.8%

## 2 ペーパーテストの問題と通過率

### (1) 本県の通過率が最も高かった問題

5

春男さんたちは、情報を伝えるものを集めました。  
くらしの中の情報について、あとの問題に答えなさい。

1 電話 2 新聞 3 手紙やはがき 4 テレビやラジオ

通過率 (%)	
本県	94.2
全国	92.1
設定通過率	(75.0)
全国通過率との差	2.1

(2) 次のことがらは、上の1から4のどれについて言っていますか。あてはまるものを一つずつ選んで書きなさい。

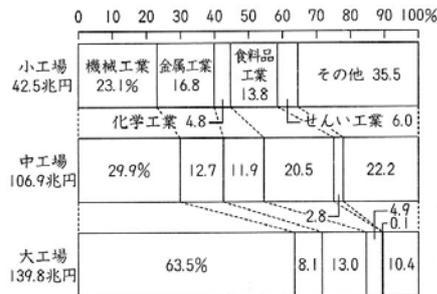
ア 春男：「大切だと思う情報は、切りぬいていつまでも保存しておくことができます。」

### (2) 前回と同一問題のうち、本県の通過率が、前回の全国通過率を全国より大きく上回った問題

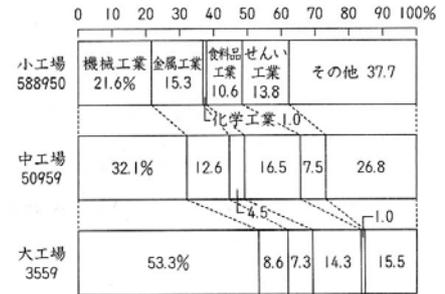
5

次の資料を見て、あとの問題に答えなさい。

(資料2) 工場の規模別・種類別の生産額の割合



(資料3) 工場の規模別・種類別の工場数の割合



通過率 (%)	
本県	63.1
全国	56.0
全国 (前回)	50.1

(2) 資料2と3から言えることはなんですか。次の中から一つ選んで、その番号を□の中に書きなさい。

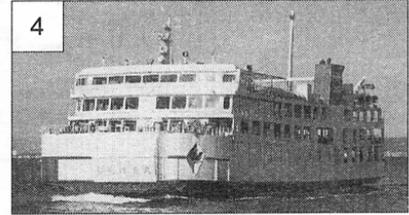
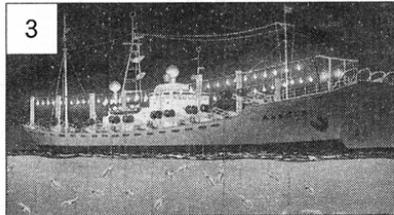
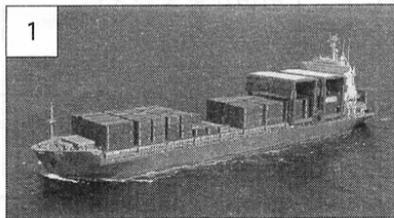
- 1 生産額がもっとも多い工業地帯は、京浜工業地帯である。
- 2 中小工場では、大工場で使う部品を作っている。
- 3 日本の工業の中心は、機械工業である。
- 4 自動車の輸出が増え、機械の生産額も増えている。

( 3 ) 本県の通過率が全国の通過率を 10%以上、上回った問題

4 工業原料の輸入先や輸送などについて、あとの問題に答えなさい。

(3) 石油を運ぶ船を、次の中から一つ選んで、その番号を  の中に書きなさい。

通過率 ( % )	
本県	63.2
全国	49.9
設定通過率	(75.0)
全国通過率との差	13.3



8 正さんがつくった「公害・環境年表」を見て、あとの問題に答えなさい。

(1) 年表の  ア は、すべて同じことばが入ります。アにあてはまるものを、次の中から一つ選んで、その番号を  の中に書きなさい。

- 1 銀行    2 工場    3 外国    4 商店

通過率 ( % )		見出し	年	主なできごと
本県	88.4	裁判を起こす	昭和 35 (1960)	<ul style="list-style-type: none"> <li>三重県四日市市の住民が、問題を市にうったえる。</li> <li>新潟水俣病かん者が <input type="text"/> ア を相手に裁判をおこす。</li> </ul>
全国	76.0		昭和 43 (1968)	<ul style="list-style-type: none"> <li>四日市市の公害かん者が <input type="text"/> ア を相手に裁判をおこす。</li> <li>国が公害対策基本法をつくる。</li> <li>富山県のイタイタイ病かん者が <input type="text"/> ア を相手に裁判をおこす。</li> </ul>
設定通過率	(80.0)		昭和 44 (1969)	<ul style="list-style-type: none"> <li>国が工場のけむりやそう音をとりしめる法律をつくる。</li> <li>熊本県水俣市の水俣病かん者が <input type="text"/> ア を相手に裁判をおこす。</li> </ul>
全国通過率との差	12.4			

(4) 本県の通過率が最も低かった問題

9 日本の都道府県の名前や位置などについて、あとの問題に答えなさい。

1 長野県 2 京都府 3 宮崎県 4 新潟県

(1) 上の1から4の府や県を次の三つに分けました。  
アからウにあてはまる府や県の番号を□の中に書きなさい。

(1)

通過率 (%)	
本県	46.2
全国	47.7
設定通過率	(65.0)
全国通過率との差	-1.5

日本海に面している県 — 2 ア

太平洋に面している県 — イ

どちらにも面していない県 — ウ

ア □ イ □ ウ □

(2) 下のカードは、どの府や県を説明したものですか。例にならって、あてはまるものを一つ選んで、その番号を□の中に書きなさい。また、その府や県のある地方の名前を、下の□の中から一つ選んで、□の中に書きなさい。

(2)

通過率 (%)	
本県	38.4
全国	43.7
設定通過率	(65.0)
全国通過率との差	-5.3

例

ここには高い山脈があり、りんごやレタスの栽培がさかんです。 □ 1

中部 地方

ここは冬でも暖かく、ピーマンやきゅうりの生産がさかんです。 □

地方

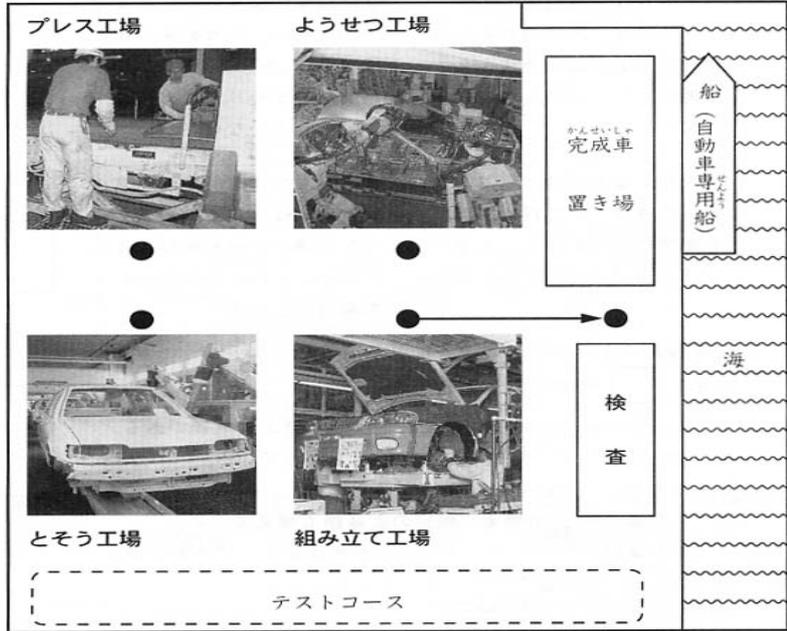
北海道 東北 関東 中部  
近畿 中国 四国 九州

(5) 本県の通過率が全国の通過率を10%以上、下回った問題

4 次の資料を見て、あとの問題に答えなさい。

(資料) 自動車工場の配置図

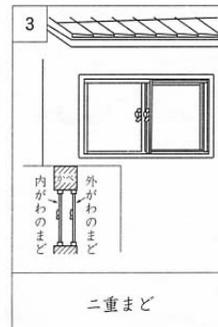
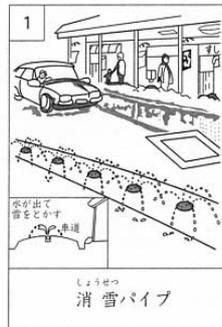
通過率 (%)	
本県	48.9
全国	62.8
設定通過率	(65.0)
全国通過率との差	-13.9



(2) 配置図の 印を で結んで、自動車が生産される順序が分かるようにしなさい。

8 なみえさんは、北海道の寒さの厳しい地域に住む人々の暮らしについて調べてみました。「冬の寒さから暮らしを守るくふう」にあうものを、次の中から一つ選んで、その番号を の中に書きなさい。

通過率 (%)	
本県	67.8
全国	79.5
設定通過率	(75.0)
全国通過率との差	-11.7



## 児童質問紙調査(意識調査)の結果から

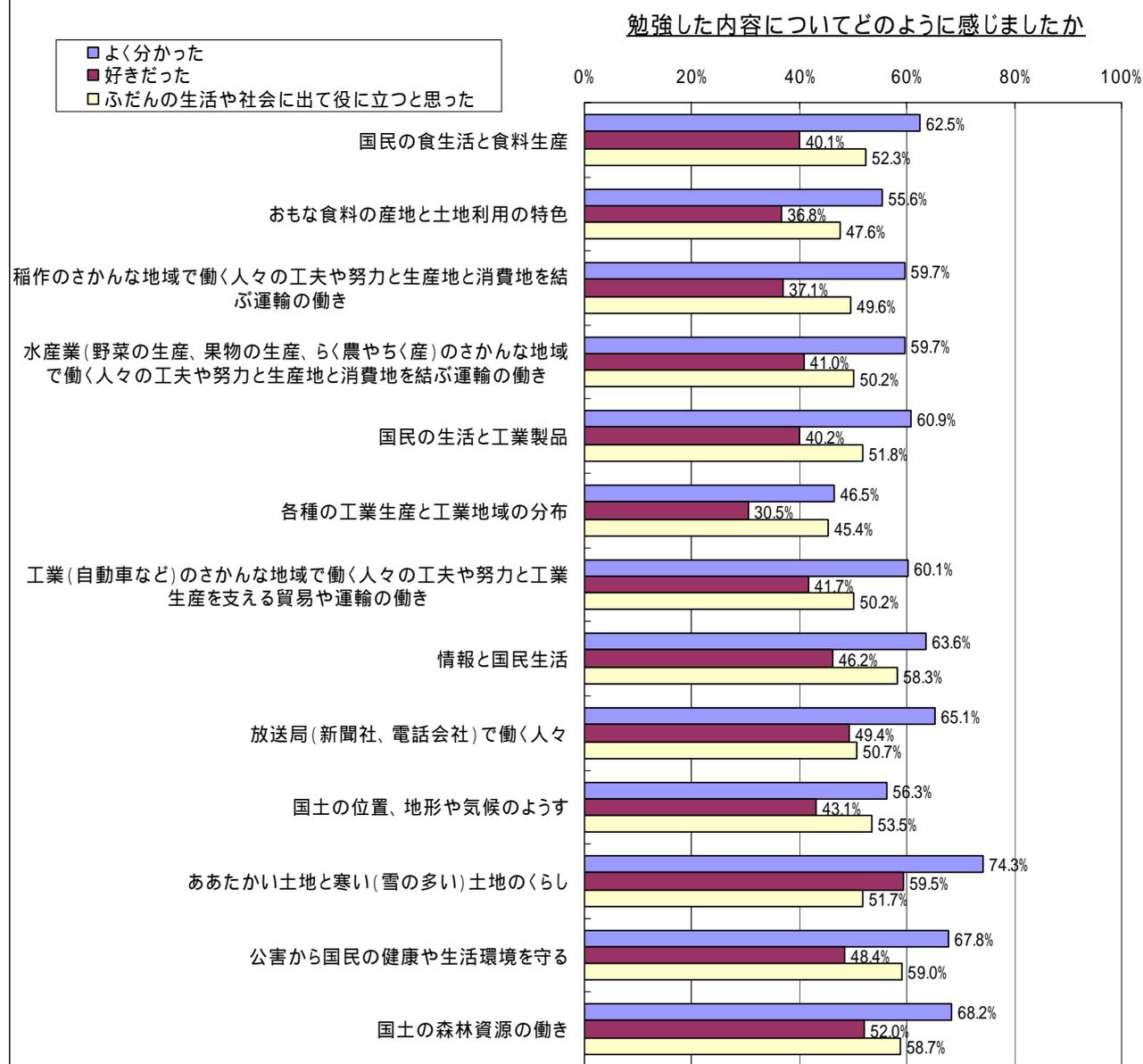
- \* 数値は、質問に対して回答した児童の割合を表す。
- \* 本県の結果は、平成16年7月に6年生で実施したものの、  
全国の結果は、平成16年2月に5年生で実施したものの。

社会科の勉強に対する意識		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	分からない
社会科の勉強が好きだ。	本県	39.9%	27.6%	16.0%	12.2%	3.4%
	全国	24.2%	30.5%	22.9%	17.5%	4.3%
社会科の勉強は大切だ。	本県	58.5%	27.3%	6.2%	3.7%	3.0%
	全国	50.7%	33.9%	7.1%	4.0%	3.5%
社会科を勉強すれば、私は、社会の一員としてよりよい社会を考えることができるようになる。	本県	37.7%	29.9%	12.7%	6.6%	11.8%
	全国	32.2%	32.9%	14.7%	7.0%	12.3%

社会科の勉強の理解度		よく分かる	だいたい分かる	分かることと分からないことが半分くらいずつある	分からないことが多い	ほとんど分からない
社会科の授業がどの程度分かりますか。	本県	31.9%	37.0%	20.9%	5.6%	1.6%
	全国	22.5%	42.7%	24.5%	6.3%	1.6%

関心・意欲・態度		そうしている	どちらかといえばそうしている	どちらかといえばそうしていない	そうしていない
社会科の勉強で、学校の図書館などを利用して、資料を集めたり活用したりしていますか。	本県	27.5%	29.3%	22.4%	19.3%
	全国	20.4%	29.5%	27.3%	21.7%
新しく出会った地名の位置などについて、地図や地図帳でたしかめるようにしていますか。	本県	20.6%	29.0%	26.6%	22.6%
	全国	21.2%	31.0%	26.7%	20.2%

## 社会科で勉強した内容についての意識



## 児童質問紙調査とペーパーテストの結果との関連

社会科の勉強の内容や世の中のできごとについて興味・関心をもち、自分で調べたり、ニュース等を見たりしている児童は、ペーパーテストの正答率がやや高い傾向がみられる。

\* 数値は、ペーパーテスト(社会科)の平均正答率(%)を表す。

質問	選択肢	そうしている			そうしていない
		そうしている	どちらかといえば そうしている	どちらかといえば そうしていない	
社会科の勉強に関することで、分からないことや興味・関心をもったことについて自分から調べようとしていますか。		69.0	68.2	67.5	64.5
世の中のできごとなどを知るために、新聞やテレビのニュース番組を進んで見えていますか。		69.1	67.4	65.7	61.3

## 2 社会科の学習指導の改善プラン

第5学年の学習内容について、ペーパーテスト調査の結果では、全問題の通過率の平均は7割を超え、全国と同程度でした。また、社会科の勉強に対する意識では、「社会科の勉強が好きだ」、「社会科の勉強がよく分かる」と回答した児童の割合は、いずれも全国を上回っています。

今回は、社会科の学習全般にかかわる内容であり、調査結果で課題がみられた「地図や地図帳の活用」と「都道府県の位置と名称」を取り上げ、学習指導の工夫改善について述べます。

### 課題1： 地図を活用する力

- ・新しく出会った地名の位置を、地図や地図帳で確かめるようにしている児童は5割に満たない。
- ・地図帳を活用して、都市の緯度を答えたり、2点間の距離を求めたりする問題での正答率が低い。  
那覇市の緯度を選択肢から選ぶ問題の正答率・・・53.7%  
札幌市从那覇市までの距離を選択肢から選ぶ問題の正答率・・・62.5%

### 地図を活用する学習を充実させましょう

地図帳は、社会的事象を適切に見たり考えたりする能力を育てるために必要な教材です。地名の位置を確認するだけでなく、社会的事象の様子や関係、自然環境とのかかわりなども調べることがができます。こうした活用の仕方を身に付け、問題解決のための教材として必要に応じて活用する知識や能力を育てるようにすることが大切です。社会科で身に付けるべき基礎・基本として、意図的・計画的に指導しましょう。



### 地図を活用する力がどの程度身に付いているか確認しましょう

小学校で身に付けさせたい地図の活用に関する力	
	日本地図上で都道府県の位置が分かる。
	学習で出てきた地名を自発的に調べようとする。
	地図索引の使い方が分かり、地名を探すことができる。
	地図上のルート（道路や鉄道）をたどることができる。
	地図帳の構成が分かり、目的に応じて地図や統計資料を活用できる。
	8方位を用いて位置関係を示すことができる。
	縮尺を用いて距離を求めることができる。
	等高線から土地の高低や傾斜の特色をとらえることができる。
	凡例や地図記号に着目して土地の高低や地形、土地利用の様子が読み取れる。
	自然・産業・交通の関係に着目して地図を読むことができる。
	調べたことを地図に表すことができる。
	大まかな形の日本地図を描くことができる。



## 1 地図帳の使い方を学習する場を設け、活用のポイントを指導しましょう

地図帳をあまり使わないという児童の中には、使い方がよく分からないという児童が少なくありません。地図は約束事でできています。この約束事が分かると、地図が読めるようになり、地図帳を活用することが面白くなります。地図帳活用のポイントや方法について指導するとともに、自発的に活用している場面をとらえ、使い方や読み取り方のよさを他の児童にも伝えるようにしましょう。

### POINT

#### ポイント1 地図を選ぶ

地図帳には、縮尺の異なる地図のほか、地形や気候、産業や交通の様子を表した主題図も載っています。調べる課題によって、どの地図を見ればよいかを考え、選んで使いましょう。

#### ポイント2: 鳥瞰図や写真と見比べる

その地域を写した写真や地図帳に掲載されている鳥瞰図も使うと景観や土地の様子をとらえやすくなります。地図と見比べながら、土地の高さや地形、土地利用などを読み取りましょう。

#### ポイント3: 凡例、地図記号に注目する

土地の高低を表す色や土地利用の凡例、地図記号に着目します。水田や畑、果樹園はどんなところに広がっているのか、主な鉄道や道路はどの辺りを通っているのかなど、土地の様子を想像しながら、地形と産業や交通との関係についても考えてみましょう。

自分から地図帳を使っている児童を大いに誉めましょう。本人が自覚できるだけでなく、地図帳の使い方や読み取り方のよさについて他の児童が学ぶよい機会となります。



#### ポイント4: 統計資料を使う

地図だけでなく、統計資料からも都道府県の特徴を読み取ることができます。他の都道府県と比較すると、気候や人口、産業の特徴などが分かります。

#### ポイント6: 縮尺を用いて距離を求める

地図は実際の様子を縮めて描いてあります。地図に書かれた縮尺を用いると実際の距離を求めることができます。

#### 地図上の長さ×縮尺＝実際の距離

例) 100万分の1の地図上で5cmの長さは、実際には50kmです。

$$\begin{aligned} 5\text{cm} \times 1,000,000 &= 5,000,000\text{cm} \\ &= 50,000\text{m} \\ &= 50\text{km} \end{aligned}$$

#### 縮尺の表し方

100万分の1

1: 1,000,000

0 10km

#### ポイント5: 地名索引を使う

地名索引を使うと、地名を簡単に見つけることができます。地図に引かれた縦と横の線によって区切られた列と行には、それぞれ索引の記号と数字が示されています。これを手がかりにすると、早く地名を見つけることができます。

例) うつのみや 宇都宮[栃木]...33エ4  
地図帳の33ページ、「エの列」と「4の行」の重なる辺りに、「宇都宮」という地名がある。

## 2 地図を活用する場面を位置づけた授業展開を工夫しましょう

第5学年では、我が国の産業の特色について具体的な地域を取り上げて学習します。事例として取り上げた地域の自然環境や土地利用、交通の様子等について具体的に知るためには、地図を活用して調べたり表現したりする学習を位置づけて指導することが有効です。

日本の食糧生産に関する単元での活用例

～「米づくりのさかんな地域を調べよう」～

**活用場面**

産地の自然環境や土地利用、消費地とのつながりについて具体的に理解させる手立てとして、次のような場面で地図を活用することが考えられます。

自分が食べている米はどこで作られたものか調べ、生産地を地図で確認する。

地図を見て、田の周りには、どのような風景が広がっているか予想する。

\* 凡例に着目させ、田がどのような場所に広がっているかを読み取らせる。

(土地の高低、川や平野の位置、地形、土地利用の様子)

\* その地域の景観を具体的にイメージできるよう、写真やビデオ等を活用する。

どんな地域で米の生産がさかんなのか調べる。

- ・ 都道府県別の統計から、米の生産額を確認する。
- ・ 米の生産額ごとに白地図の都道府県を色分けする。
- ・ 東北地方や中部地方の日本海側で米づくりが特にさかんな理由を考える。

教科書や他の資料から

生産地の地形や気候などの自然環境について調べる。

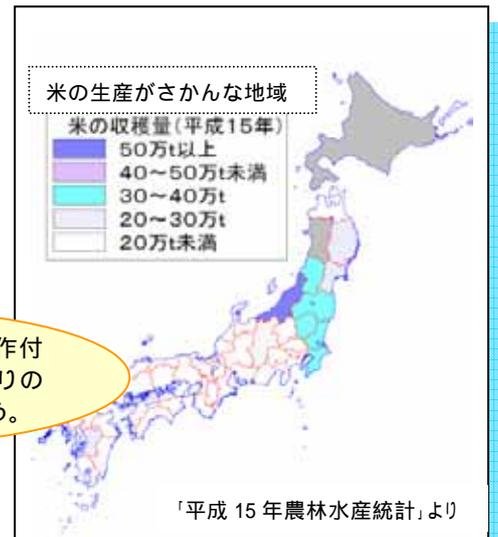
- ・ その地域の気温と降水量の統計や主題図から気候と米づくりの関連を考える。
- ・ 米の生産には地形や気候などの自然環境が関係していることを白地図にまとめる。

生産地から消費地までの輸送手段とルートを調べて、地図上でたどる。

主にトラック輸送と鉄道でのコンテナ輸送によって運ばれます。生産地と消費地をつなぐ鉄道や主要道路を確かめてみよう。

川の中・下流域には平野が広がり、水田に利用されています。

山からの雪解け水が川に流れ込み、米づくりに必要な水が得られます。



耕地面積に占める米の作付け面積の割合や10aあたりの米の取れ高も比べてみよう。

地図や統計資料から必要とする情報を見つけて読み取ることや、調べたことを整理して白地図に表す学習を繰り返すことによって、資料活用の技能が身に付き、学習内容の理解が確かなものになっていきます。



## 課題2：「国土の構成」に関する知識・理解

- ・ 日本列島を構成する島で、面積が2番目に広い島を答える問題の正答率・・・45.2%
- ・ 都道府県の名称と位置に関する問題の正答率・・・46.3%
- ・ 国土の位置、地形や気候のようすについて「よく分かった」と回答した児童・・・56.3%

### 我が国を構成する47都道府県の位置と名前を身に付けさせましょう

学習指導要領には、小学校終了段階までに、わが国は47の都道府県から構成されていることを理解し、日本地図上でそれらが分かるようにすることとされています。しかし、今回の調査結果をみると、国土を構成する主な島の名称、都道府県の位置と名称等、我が国の国土についての基礎的な知識について十分に身に付いていないという状況でした。指導にあたっては、各学年において、地図や統計資料などを有効に活用し、次第にわが国の都道府県の構成について分かるようにするとともに、繰り返し活用する機会を設けて知識の定着を図ることが大切です。

#### 都道府県の位置と名前が分かるように・・・

様々な県（都、道、府）の名前が登場する学習場面では、その都度、県（都、道、府）の位置を日本地図で確認するようにします。

児童一人一人が地図帳を活用したり、調べて確かめたことを白地図にまとめたりするなど具体的な活動を取り入れます。

地形の特色や地域による気候の違いなどがイメージできるような教材もあわせて使います。 例) 写真やビデオ、雨温図や桜開花日を示した地図等

県名の由来や特産物など、その都道府県に関する情報を加えて、記憶に残るような活動を工夫します。

#### 例) 都道府県カードづくり：

個人やグループで、都道府県カードを作って、カルタ遊びなどをしながら地名や特色を覚える。

- ・ 気候や地形、特産物など特色として取り上げる項目を決める。
- ・ 新たに分かったことを書き込めるスペースを空けておく。
- ・ 地方ごとにカードを色分けしたり、イラストを入れたりする。
- ・ 獲得したカードの都道府県の位置を白地図に示す。



覚えることだけを目的にしてしまうと児童によっては負担感や抵抗感を感じてしまうおそれがあります。クイズやカードを作って問題を出し合うなど、楽しみながら都道府県の名称や位置を覚えていくような活動も考えてみましょう。

## 地図帳の日常的な活用を促しましょう

地図帳は、他の教科や領域、総合的な学習の時間などでも活用する場面は多いはずです。繰り返し使うことで、地図帳の使い方や見方がうまくなっていきます。身近なところに置いて、他の教科や家庭でも大いに活用させましょう。

### 活用例

たとえば、こんな場面で…

- ・教材文に出てくる地名や作品の舞台になった地域について調べる。(国語、道徳)
- ・川の働きや地層について学習する際に地形や土地利用の様子を確かめる。(理科)
- ・縮尺について学習するときに地図上の具体的な地点間の距離換算をする。(算数)
- ・郷土料理や食材の産地について調べる。(家庭)
- ・テーマに関する情報を地図から読み取ったり、調べたことを地図に表現したりする。  
(総合的な学習の時間)
- ・校外学習や旅行の際に目的地を確認し、目的地までのルートや距離、所要時間等を調べる。  
(特別活動)
- ・ニュース等で報道された地域を確認し、興味をもったことについて紹介する。(朝の学習)

家庭でも地図帳を開いて…

たとえば、愛知県で開催されている万博に注目します。開催地を地図帳で調べ、交通手段や立ち寄りしたい所などを考えながら、自分の住んでいる所から開催地までの旅行ルートを決めたり、所要時間を計算させたりするのもよいでしょう。その土地で食べたいものや買ってきたい土産を考えるのも楽しいものです。実際に地図帳を開き、目的地やルートを確認するなかで、地形や土地利用、さかんな産業について目を向けたり、世の中のできごとや時事問題への関心を高めたりすることが期待できます。

さらに…

巻末の統計で、産業別生産額やくらしと環境に関する数値を他の都道府県と比較してみましょう。すると、愛知県は、工業生産額が全国1位であることや公害苦情件数が多いことが分かります。そうした気づきを社会科の学習につなげて、産業や国民生活との関連、環境保全の重要性について関心を深めていくことができます。

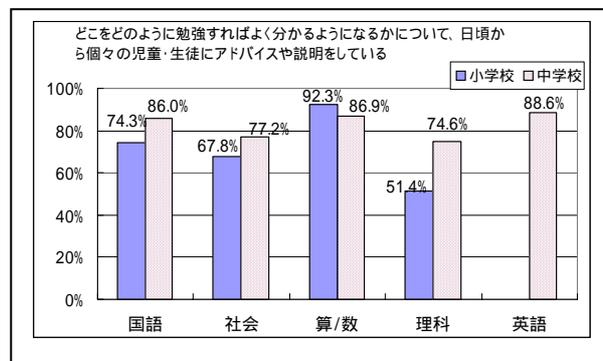
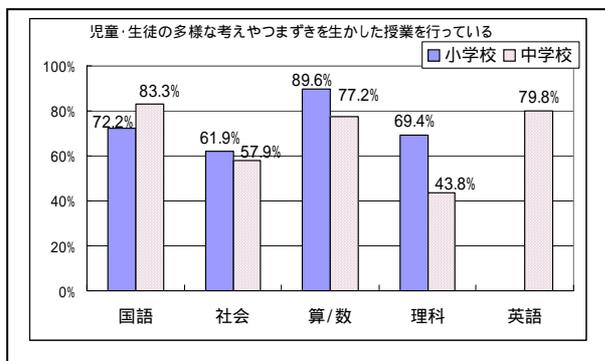
社会科で大切にしたい資質や能力として、

世の中のできごとに関心をもち自分とのつながりを意識できること、事実にもとづいて考えること、身に付けた知識や技能を学習や生活の中で使うことなどがあります。学習が授業だけで閉じてしまわずに日常の興味・関心と結びつき、また、授業によって深まっていくためには、家庭学習をも含めた学習指導の工夫が望まれます。&

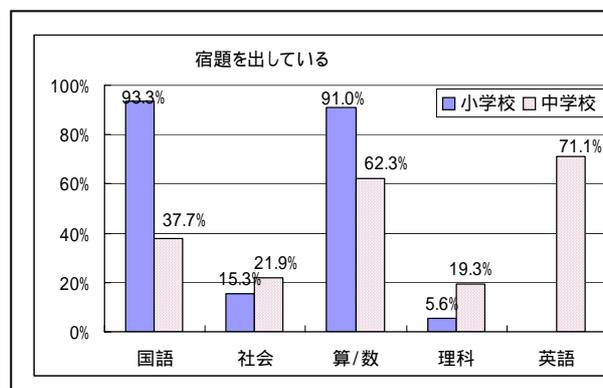
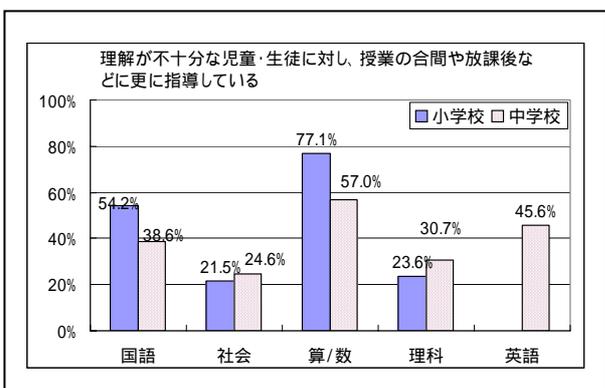


## 教師の指導の状況

### 個に応じた指導



### 基礎・基本や学習習慣を身に付けるための取組



## 平成16年度 栃木県 教育課程実施状況調査の概要

- 調査実施時期： 平成16年7月1日～7月19日の期間内
- 調査方法： ペーパーテスト調査、児童生徒及び教員に対する質問紙による意識調査
- 調査対象学年： 小学校第6学年、中学校第3学年
- 調査教科： ・小学校（第5学年段階の内容）：国語、社会科、算数、理科  
 ・中学校（第2学年段階の内容）：国語、社会科、数学、理科、英語
- 調査問題： ・国立教育政策研究所が平成16年2月に実施した「小学校及び中学校教育課程実施状況調査」の複製  
 ＊ペーパーテスト調査については、各教科ともA、B、Cの3種類（ほぼ同程度の内容及び水準）の問題冊子を使用
- 調査学校及び児童生徒数： ・小学校：144校 約3900人  
 ・中学校：114校 約3500人

調査結果等は栃木県総合教育センターのホームページ（<http://www.tochigi-c.ed.jp/>）でご覧いただけます。

栃木の子どもの学力向上を図る授業改善プラン

- 平成16年度教育課程実施状況調査の結果を踏まえて -

【小学校・社会科】

発行 平成17年5月

栃木県総合教育センター 研究調査部

〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070

TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303